



M松本  
Pプライド  
Pプロジェクト

政治をもっと身近に。MPPは、若者のまちづくりへの参加を促します。

ジセダイと語る 松本のプライド

7.25 **ウェブ革命が未来を創る**  
ゲスト: 草間淳哉氏  
兼清慎一氏



8.30 **自転車新たな価値を創る**  
ゲスト: 鈴木雷太氏



次代を担う若者と「松本のこれから」について語り合うトークイベントです。毎月1回、松本で新しい事業にチャレンジする気鋭の若手をゲストに迎え、フリージャーナリストとしての臥雲義尚(MPP代表)がナビゲーターとなり、松本の埋もれた価値や将来像を掘り起こしています。若者が夢を語る松本市を目指します。

「ジセダイと語る 松本のプライド」は、様々な分野で活躍する若手の代表を紹介することを通じて、松本市が抱える課題や未来について同世代の人たちに考えてもらおうと思いました。大都市に比べると、松本市は、年配の方々の隠然たる影響力が強く、若い世代が本来の力を発揮できない。そうした状況を突破することが僕らの世代の役割ではないかという思いもありました。

松本に住む若い世代は、まちづくりや行政のあり方に大きな関心を持っていると感じます。機会があれば、自分の意見を伝えたいと思っているはず。「談論風発」=風が勢いよく吹くように活発に議論する。そういう空気を若い世代と共に作っていくことが、僕の役割だと考えています。(臥雲義尚)

第1回は、ウェブ制作会社の草間淳哉さんと、山梨県立大学准教授兼清慎一さんを囲んで、ITやSNSの活用で私たちの暮らしがどのように変わるのか考えました。集まった若者からも意見を吸い上げようと、積極的に指名するナビゲーターの姿が印象的でした。第2回のゲスト鈴木雷太さん(元競技自転車選手)には、リオ五輪の監督を務められ、帰国直後でお疲れのところ、自転車の魅力と可能性をたっぷり語っていただきました。

臥雲の会からお知らせ

- 地区訪問
  - 6.14 波田
  - 7.11 蟻ヶ崎西
  - 9.12 清水二丁目老人会



選挙が終わって3ヶ月、まず波田地区で、後援会組織が立ち上がりました。臥雲を応援する有志20人が集まりました。地域を訪ね、意見に耳を傾け、課題を掘り起こす集会を積み重ね、臥雲を支えていただく組織を、市内全域に広げていきたいと思ひます。少人数でも、ぜひお声がけください!

支援のお願い

＜臥雲義尚を応援して下さる皆さまへ＞

臥雲義尚の政治活動は、みなさまの支援によって支えられています。継続的なご寄付が活動の支えになります。どうぞご支援をお願い申し上げます。ご賛同いただける方は、登録書(別紙)により登録をお願い申し上げます。

＜編集後記＞

事務所の近隣でビルの改修工事が始まり、駅前には昼間も賑やかだ。工事といえば、この夏、キイロスズメバチが我が家の屋根裏に巣を作ったようで、最近、冬を前に激しく飛び回っている。その下を通るときは、なるべく刺激しないようにしていたが、長雨の後で、蜂たちも苛立っていたのか、とうとう家族が刺されてしまった。大事には至らなかったが、油断大敵。共存とは難しいものだが、営巣が終わるまで、待つことにしよう。(くり)

臥雲の会 事務局

〒390-0811  
長野県松本市中央1-2-24 やまがビル2階  
TEL : 0263-36-7343  
FAX : 0263-36-7343  
E-mail : info@gaun-y.com

G通信



2016年9月・第1号  
が うんよしなお  
臥雲義尚 リポート

＜巻頭言＞

松本に帰ってきて、本当に良かったと思います。もちろん、選挙に負けて、落胆もしましたし、先行きが見通せない不安もありました。それでも、この半年、大勢の方々から声をかけていただき、イベントや会合に招いていただき、松本で暮らす人たちの日常に触れるたびに、自分が選んだ道は間違っていないと思います。

人口24万の地方都市・松本が持つ、ポテンシャルの高さを日々実感します。雄大な自然、清涼な気候、カルチャー度の高さ、充実した医療体制、センスの良い飲食店 etc. こうしたポテンシャルを最大限生かし、人口が減少する時代であっても、若い世代が定着して、快適で豊かな暮らしができる街であり続けられるようにする。それが、僕の取り組む課題です。日常的に賑わう中心市街地を作る、ストレスのない交通インフラを整備する、スポーツと観光を組み合わせて新たな雇用を生み出す、子育てから医療・介護まで質の高い生活保障制度を整える。松本をもっと魅力的な街にするために、やるべきことは数多くあります。

「継承と革新」。いま大切にしたいと考えていることです。先人が築いてきた松本の良さを継承し、未来に向けて新しいものを生み出していく。そのために、50代の僕がやらなければならないことは、「世代の架け橋」になることです。月に1回、松本駅前の小さなホールで、松本で活躍する若い世代をゲストに招いて松本の未来を語り合うイベント、「ジセダイと語る 松本のプライド」は、世代と世代をつなぐ試みの1つです。

これから3年半という時間は、僕にとっても松本にとっても、長いようで短いだろうと思います。世界はもの凄いスピードで変化しています。目標をどれだけ早く達成できるかが競われています。日本の地方都市が、その波に翻弄されるのではなく、その波を利用して大切なものを守っていく。そんな強さ、賢さ、したたかさが必要です。世代を超えて松本の未来を創っていきます。

臥雲義尚は、インターネットとソーシャルメディアを活用した情報の発信と対話に力を入れようと考えています。日々の活動は、Facebook、Twitter、ブログ、をご覧くださいませ。

臥雲の会・会員 SNS 体験会 参加者募集!

SNS(Facebook、LINE、twitter)で交流しましょう!  
開催日:(第1回)平成28年10月22日(土) 10:00~12:00  
(2回)11月4日(金)、(3回)11月11日(金)  
場所:臥雲の会 事務所(中央1-2-24 やまがビル2階)  
講師:小林美代子氏(NPO 法人オフィスロイヤル)  
定員:1回8名 受講料:無料  
持ち物:スマートフォン、タブレットをご持参ください。  
※お申込みは、臥雲の会まで

臥雲義尚

Facebook 臥雲義尚  
Twitter @YGaun  
ブログ yoshinao-gaun.amebaownd.com

臥雲の会

Facebook 臥雲の会  
公式ホームページ gaun-y.com



# “臥雲の日常と横顔”



いいね！  
ランキング入賞

- 1 7.20 深志野球部甲子園の夢散る
- 2 7.13 後輩の井出衆議院議員と再会
- 3 7.18 深志野球部スーパー1年生
- 4 7.14 歌舞伎で市民エキストラ出演
- 5 7.12 深志野球部夏の初戦突破
- 6 8.17 リオ五輪 福原愛指導者の姿
- 7 8.10 リオ五輪 福原愛勝負師の顔
- 8 8.22 常念岳 39年ぶりの登山

この夏、五輪、野球とスポーツが熱かった！FBでは、政治以上にスポーツ解説が好評で、ランキング上位を占めました。母校野球部の応援にも力が入りました。

## 主な投稿記事

### 9月

- 9.12 市議会「詭弁」発言で休憩
- 9.06 美鈴湖の自然エリアを巡る
- 9.05 市議会第10次基本計画

### 8月 投稿 46件

- 8.11 山の日にアルプス公園散歩
- 8.06 松本ぼんぼん“学生注目”
- 8.05 スズキ・メソード夏季学校
- 8.03 市政懇談会@大手公民館

### 7月 投稿 77

- 7.23 深志掲示板「ポケモンGO…」
- 7.16 南三陸町にボランティア
- 7.13 市立博物館の地元説明会
- 7.10 まつもと大歌舞伎登城行列
- 7.09 ダークネスレストランを体験

### 6月 投稿 15件

- 6.28 松本絶景ルネサンスを読む
- 6.22 参院選告示で駅前街頭演説
- 6.21 市議会傍聴と副市長続投
- 6.20 参院選の公開討論会へ



そして、猫描写が人気！臥雲も、猫にはお手あげ！

臥雲義尚が、日々、松本のイベントや気になる場所を訪ね、感じたことや考えたことを、ユーモラスに綴っています。また、関心あるニュースを、政治から時事、スポーツまで、幅広くウォッチ。臥雲の日常と横顔を見ていただけます。

炎天下の大乱戦でした。1回表に5点入ったことが結果的に試合運びを難しくしたと思います。<中略> 35年前の夏、空港の近くにあった頃の松本市営球場で、深志は3回戦で佐久(現在の佐久長聖)と対戦しました。2点リードを追いつかれた9回裏、なお2死1・2塁でマウンドへ伝令に行ったのが、背番号10のキャプテンだった僕でした。逸材と言われた2年生エースに、あまり気の利いたことが言えずに、尻をポンと叩いて帰ってきたという記憶だけが残っています。その直後、フラフラッと上がった打球は、必死に飛び込んだライトのグラブの数十センチ前に落ちて、砂埃が舞い上がりました。その光景は、鮮明に憶えています。



全国・海外から1000人あまりの子どもたちが参加している「スズキ・メソード夏季学校」。あがたの森に足を運び、レッスンを見学してきました。趣きのある教室や木洩れ日の下で子どもたちが奏でるバイオリンの音を聴いていると、何とも言えない穏やかな気持ちになりました。



幼児教育の先駆けとして松本から世界に広がったスズキ・メソード。小中高校の教室も借りて行われる夏季学校は、アートの街・松本の夏の風物詩として、サイトウキネンと共に末永く大切にしていきたいイベントです。



南三陸町の仮設商店街で、中山そば振興会の方々に交じって、地元の皆さんに蕎麦を振る舞うボランティアを行いました。見よう見まねで蕎麦を水洗いする工程を続けていましたが、いまだ復興の途上にある皆さんから、「ありがとう」と感謝の言葉をいただきました。来年3月には盛土をした高台に新たな商店街がオープンするそうです。

信州まつもと大歌舞伎の登城行列で、何十年ぶりかで神輿を担ぎました。威勢よくやること、シンクロすることで、肩の痛みが和らいで、ワクワク楽しくできるんだなと実感しました。神輿でしか味わえない一体感と爽快感だなと思いました。人目に付くところも、人目に付かないところも、両方担がせてもらい、



「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人」という田中元総理がよく口にしていた言葉が蘇りました。それにしても、これだけの役者と市民が集まる真夏のイベント、さらに大きく育てていきたいものです。

# 臥雲義尚ブログ「Gの政治考」



これまでのアクセス数を見ると、松本市政に関する記事への関心が高いことがわかります。そして、ダントツ1位の「動き出す 松本の中心市街地再生」の819アクセスには、再生への期待感を感じます。

松本市長選挙が終わってから2ヶ月後の5月13日に、臥雲義尚がブログを開きました。30年近い記者としての経験と、故郷に戻った一市民としての視点を融合させ、いま、松本・日本・世界で起きている時事問題を、私たちの暮らしに引き寄せて、わかりやすく解説しています。

## 投稿記事 <5月~9月>

- 09.23 288 地政学的ポテンシャルを問い直す
- 4 09.13 535 リベラリストであること
- 09.06 225 自転車交通で、QOLを高めよう
- 08.29 264 働き方改革で夏休みをバカンスに
- 5 08.15 492 生前退位表明から1週間…
- 08.04 396 市民と対話を重ねる政治を目指す
- 3 07.26 585 ジセダイと語る 松本のプライド
- 07.15 192 外国由来の人たちと共に生きる
- 07.07 264 ミレニアル世代が日本を変える
- 06.30 487 市長と市民の適切な距離感
- 06.22 300 ナンバー2 長期在任の光と影
- 1 06.14 819 動き出す 松本の中心市街地再生
- 2 06.14 744 地方議会に期待されること
- 06.10 300 子育て支援が政治課題となる時代
- 06.07 336 ベーシックインカムという考え方
- 06.02 312 いまは増税しない…
- 05.29 300 リーマンショック級のリスクなのか
- 05.26 衆参同日選挙は見送られる
- 05.24 沖縄が求める日米地位協定改定
- 05.21 松本のカラマツで湘南の家を建てる
- 05.18 自動運転カーは社会を変えるのか
- 05.15 オバマ大統領はなぜ広島を訪れるのか
- 05.13 衆参同日選挙はないのか

## 2016.06.14 12:34 動き出す 松本の中心市街地再生

6月市議会の初日に開かれた議員全員協議会。「松本市立博物館」の具体的な移転場所と共に、松本市がもう1つ明らかにしたことがありました。松本のメインストリートと松本城の天守閣を遮る形で建っている「八十二銀行松本営業部」のビルの移転です。



松本市民であれば誰もが知っている焦げ茶色の外観のビルは、本町通りから千歳橋を渡り、そのまま直進すると道路がぶつかってしまう場所に建てられています。実際には、道路はビルを避けるように曲がり、その先に松本城の姿が見えるような位置関係になっています。このような変則的な形になっているのは、ここが江戸時代まで松本城の大手門枡形があった場所だからで、戦国時代に武田軍が一気に進入できないように築かれたとされています。

そうした歴史を背負う場所に建って商都松本の象徴だったビルも、近年は老朽化が進み、中心市街地の焦点の1つとなっていました。

きのうの議員全員協議会で、松本市立博物館の移転場所に関連して、議員から「千歳橋から松本城が見えるようにすることは考えているのか」と問われると、行政側は、「八十二銀行のビルの移転についても、土地の取得を検討し、銀行側と協議を続けている」と踏み込んだ表現で答え、協議が進展していることを伺わせました。

もし八十二銀行松本営業部のビルの移転が実現すれば、中心市街地再生のボトルネックになっていたものを取り除く効果をもたらすと思います。移転先はどこになるか、そこで何が生まれるか、1つの物事が動き出すことで、心理的なつかえ棒が外れて、未来の投資を考えようという機運が広がっていくはずですよ。

菅谷市長は、きのうの所信表明で、「最も取り組みたいのは、経済の好循環の創出だ」として、「市役所建設計画」を含めた「将来世代のためのハード整備」に取り組む考えを示しています。松本市立博物館は、3年後に着工、6年後の2022年開館というスケジュールが示されました。松本市が、中心市街地の再生に動き出そうとしています。矢継ぎ早に計画を打ち出し、議会で徹底した議論を尽くし、スピード感とスケジュール感を持って取り組んでいくことを期待します。